

8/30 創世記3章1-15節「罪の報酬は死」

小池 宏明 牧師

主なる神様は、この世界に人間を創り出して、「非常に良かった」と最高の満足を表わした。神のかたちとして、霊である神様と通ずる霊的な存在として、息の合ったパートナーとして人間は創られた。

ところが「墮落」が起こり、人間の姿はゆがめられてしまった。

*蛇の誘惑と人間

蛇について、聖書全体から出て来る結論は「サタン(悪魔)」を指している。(ローマ16:20、黙示録12:9、20:2) 蛇(サタン)は、神のことばを歪めて人に神を疑わせることから始め、神のことばを完全否定する。さらに、蛇は、人に神の愛と真実を疑わせて、神の支配から離れて独立するように誘う。人は、神のことばを曖昧にして、付け加えたり、差し引いたりして、サタンの誘惑(罠)にはまって行くことがないように警戒する必要がある。

*罪の結果と救いの約束

罪の結果、神と人には、深い断絶が生まれた。神が「必ず死ぬ」と言われた刑罰が実現したのだ。そして、残念ながら、この初めの罪、主なる神様との断絶は、私たちも受け継ぐことになってしまった。それでも、主は、墮落した人に呼びかけてくださり、救いの約束をしてくださったのだ。主は墮落した人間のために救いの御業を始める。15節「わたしは敵意を、おまえと女の間に、おまえの子孫と女の子孫の間に置く。彼はおまえの頭を打ち、おまえは彼のかかとを打つ。」これは「原福音」と言われる。蛇の子孫(サタン)と女の子孫(救い主)とが闘って、救い主の勝利を約束しているのだ。ここに、すでに、イエス・キリストによる救いが予め示されている。

*死を克服していのちに歩む教会

私たち(教会)は、主なる神様との深い断絶から救い出され、再び、主なる神様との深い交わりに入れられ、主を拝しながら生きる者とされたことを感謝する。一方で、再び誘惑に陥ることが無いように、主の御ことばをしっかりと握りながら、よく御ことばを学び、思い巡らし、御ことばを自らの血肉としながら歩いて生きたい。「罪の報酬は死です。しかし神の賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。」(ローマ6:23)